

会長挨拶

紫緑会 会長 梶原 香里

(京都大学医療技術短期大学部作業療法学科 1985 年卒)



卒業生の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年度より2年間、会長を務めさせていただくこととなりました。二度目ではありますが、緊張しています。どうぞよろしく願いいたします。

紫緑会は、前身の医学部附属学校の看護科・助産婦科・検査科を引継ぎ、京都大学医療技術短期大学部、医学部保健学科、そして現在の医学部人間健康科学科の、看護・検査・理学療法・作業療法専攻の卒業生、修士・博士課程の卒業生からなる同窓会です。日頃の研修会と親睦会はおもに各専攻別—紫緑会では「支部」と呼んでいます—に実施しており、名簿・会計管理や紫緑会便りの発行、京大同窓会に所属する役割などを支部の集合体である紫緑会が担っています。一昨年度は、岩田会長のもと、40周年記念版の紫緑会便りを発行いたしました。

私は、医短になって数年後に仲間入りした作業療法学科第1期の卒業生です。支部同窓会には卒業後すぐから関わっていましたが、若い頃には今ここに至るまでの想像はしていませんでした。しかし、皆様から永年会費を集めさせていただく責任については、続いていくものというやや重い気分はあったと記憶しています。

前回、紫緑会の会長をさせていただいた8年前は、保健学科から人間健康科学科に改称され、博士課程が設置された直後でした。そして、今回は、本学の入試のシステムが変わり、カリキュラムが大きく改変されて2年目です。

このように、母校は医療や医学、そして教育の発展とともに、様変わりしてきました。敷地内の建物も増え、つながり、久しぶりに来学なさった方は迷われるかもしれません。そんな中で、紫緑会は志を絶やさず活動を続けています。

同窓会ということばには、一瞬にして来し方を思い出させる力があるように思います。今、卒業生の方々はそれぞれに、色々な事情の中で日々を歩んでおられることでしょう。前を向いてどんどん行く時には、なつかしさに浸ることは少ないかもしれません。でも、立ち止まって一息入れたい時には、同窓会のつながりをご縁として役に立つこともあると、最近感じるようになりました。同窓会のつどいは、目的なくふらっと立ち寄っても温かく迎えられる場所でありたいと願っています。

そんなことを考えながら、今回のお役目をなんとか全うしたいと思っています。卒業生の皆様、ご指導ご協力の程、どうぞよろしく願いいたします。